

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第4項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 令和元年9月17日

【四半期会計期間】 第110期第3四半期  
(自平成29年10月1日至平成29年12月31日)

【会社名】 大同メタル工業株式会社

【英訳名】 Daido Metal Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長兼最高経営責任者 判 治 誠 吾

【本店の所在の場所】 愛知県名古屋市中区栄二丁目3番1号  
名古屋広小路ビルディング13階

【電話番号】 052-205-1404

【事務連絡者氏名】 取締役兼常務執行役員  
経営・財務企画ユニット長 三 代 元 之

【最寄りの連絡場所】 愛知県名古屋市中区栄二丁目3番1号  
名古屋広小路ビルディング13階

【電話番号】 052-205-1404

【事務連絡者氏名】 取締役兼常務執行役員  
経営・財務企画ユニット長 三 代 元 之

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
株式会社名古屋証券取引所  
(愛知県名古屋市中区栄三丁目8番20号)  
大同メタル工業株式会社 東京支店  
(東京都品川区東品川二丁目2番24号  
天王洲セントラルタワー17階)  
大同メタル工業株式会社 大阪支店  
(大阪府大阪市淀川区塚本二丁目13番10-201号)

## 1 【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

当社の2020年3月期第1四半期決算の作業過程におきまして、当社の英国子会社である大同メタルヨーロッパLTD.の会計処理に一部誤謬があり、当社の過去の決算において、貸倒引当金が過少に計上される等の誤りが生じていることが判明いたしました。当該誤謬には金額的な重要性が認められるため、過年度に公表した有価証券報告書等を訂正することと致しました。また、上記以外の誤謬等についても過年度の財務諸表を見直して必要と認められる訂正を行いました。

これらの訂正により、当社が平成30年2月13日に提出致しました第110期第3四半期（自平成29年10月1日 至平成29年12月31日）に係る四半期報告書の一部を訂正する必要が生じたので、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

なお、訂正後の四半期連結財務諸表については、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けており、その四半期レビュー報告書を添付しております。

## 2 【訂正事項】

### 第一部 企業情報

#### 第1 企業の概況

##### 1 主要な経営指標等の推移

#### 第2 事業の状況

##### 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

#### 第4 経理の状況

##### 1 四半期連結財務諸表

### 四半期レビュー報告書

## 3 【訂正箇所】

訂正箇所は\_\_\_\_を付して表示しております。

なお、訂正箇所が多数に及ぶことから、上記の訂正事項については、訂正後のみを記載しております。

## 第一部 【企業情報】

### 第 1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第109期 第3四半期 連結累計期間	第110期 第3四半期 連結累計期間	第109期
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日	自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高 (千円)	58,483,222	78,329,899	85,073,690
経常利益 (千円)	3,789,839	4,880,465	5,023,742
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	2,342,922	2,452,621	2,212,365
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	122,858	5,213,292	1,869,898
純資産額 (千円)	50,229,308	55,646,948	51,915,216
総資産額 (千円)	138,073,600	158,805,695	154,283,699
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	58.84	61.59	55.56
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	30.8	29.9	28.6
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	5,886,633	6,265,001	9,801,485
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	16,467,169	8,826,080	30,821,291
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	12,322,119	1,658,825	20,679,249
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	14,355,273	12,175,696	12,827,298

回次	第109期 第3四半期 連結会計期間	第110期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日	自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	16.60	39.14

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 前第4四半期連結会計期間において、株式会社飯野ホールディングの企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前第3四半期連結累計期間の関連する主要な経営指標等については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の見直しが反映された後の金額によっております。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在しておりません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当社は、平成29年12月22日に日本ピストンリング株式会社との間で、同社の連結子会社であり、ドイツに拠点を有するNPR of Europe GmbHの出資持分の一部を取得すること等について協議を進める基本合意書を締結しております。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、全体として緩やかな回復が続きました。

米国経済は、雇用環境の改善による個人消費の増加や設備投資の増加などにより好調に推移しており、欧州でも、景気は緩やかな回復基調を維持いたしました。アジア地域については、中国では各種経済政策効果もあり景気の底堅さがみられ、タイ、インドネシアなどでも景気は持ち直しの動きがみられました。

わが国経済も、実質総雇用者所得の増加による個人消費の持ち直しや、設備投資の増加などを背景に景気は緩やかな回復が続きました。一方、地政学リスクの高まりや米国の自国第一主義化の動き、英国のEU離脱問題など、海外経済の不確実性の高まりに留意が必要な状況で推移いたしました。

当社グループの主要産業分野である自動車業界につきましては、世界の2大市場の中国と米国で減速が顕在化しつつあります。中国は小型車減税効果が薄れ前年同四半期に比べ成長が鈍化、米国では平成29年（暦年）の新車販売台数が8年ぶりに前年を下回りました。しかし、新興国市場での販売回復や堅調な欧州市場・日本国内市場などに支えられ、世界の自動車生産・販売台数は堅調に推移いたしました。

非自動車分野における造船業界につきましては、平成28年（暦年）の世界の新造船受注量が記録的な不振だったこともあり、平成29年（暦年）の日本の造船会社の輸出船受注量は前年比約2.5倍と持ち直しの動きがみられました。しかし、世界全体では依然として船腹過剰の状態が続いており、需給バランスの改善には暫く時間を要するものと思われまます。

一方、建設機械業界につきましては、中国や米国などの巨大市場の需要が堅調に推移し、国内向けも好調な建設投資が続き前年同四半期に比べて大きく回復いたしました。また、一般産業分野につきましては、電力・エネルギー関連の発電設備用の特殊軸受の市場が底堅く推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループの当第3四半期連結累計期間における業績につきましては、自動車産業関連としては、北米ではメキシコ工場の生産拡大を受けて米国向けが大きく伸長し、欧州（ロシアを含む）も総じて堅調、中でもロシアの回復が顕著となりました。アジアは中国、タイを中心に堅調に推移し、国内でも平成29年（暦年）の新車販売台数が2年ぶりに500万台を越えたことを受けて、自動車産業関連全体として総じて堅調な結果となりました。非自動車分野の船舶向け軸受販売は、日本の造船会社の受注環境は足元で持ち直しておりますが、当社の販売は依然として低迷しております。一方、建設機械向け軸受販売は、中国や米国などの巨大市場の旺盛な需要を受けて急速に回復いたしました。

当社グループ全体では、前連結会計年度より当社グループとなった株式会社飯野ホールディング及びATAキャスティングテクノロジージャパン株式会社並びに当該2社のグループ会社の売上高が加わったことなどにより、グループ全体での売上高は前年同四半期に比べて33.9%増収の78,329百万円となりました。

利益面では、北米の生産の安定稼働化による原価改善等があったものの、材料費の上昇、買収2社の一時的な費用などが生じ、売上原価率は悪化いたしました。しかし、グローバルでの販売拡大の結果、のれんの償却等をカバーし、営業利益は前年同四半期に比べて23.3%増益の4,704百万円となりました。また、経常利益は前年同四半期に比べて28.8%増益の4,880百万円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同四半期に比べて4.7%増益の2,452百万円となりました。

セグメントの業績は、次のとおりです。

なお、セグメント間の内部売上高又は振替高は、連結売上高に含めております。

#### 自動車用エンジン軸受

国内は、堅調な自動車販売及び生産に支えられ微増となりました。海外は世界の2大市場である中国と米国で減速が顕在化しつつありますが、新興国市場での販売回復や堅調な欧州市場、また、エンジンのダウンサイジング化に伴うターボ用軸受販売の増加や世界各地域での販売が拡大いたしました。

これらの結果、売上高は前年同四半期に比べ18.5%増収の48,006百万円、セグメント利益は前年同四半期に比べ40.6%増益の6,814百万円となりました。

#### 自動車用エンジン以外軸受

国内は堅調な自動車販売及び生産に支えられ、海外は世界各地域での販売拡大の結果、全体として売上高は前年同四半期に比べ13.1%増収の11,909百万円、セグメント利益は前年同四半期に比べ1.9%増益の2,058百万円となりました。

#### 非自動車用軸受

建設機械向けは国内及び米国での販売が力強く回復し前年同四半期に比べて大きく伸長いたしました。しかし、一般産業分野の電力・エネルギー関連の発電設備用の特殊軸受は、再生可能エネルギー向け販売は堅調だったものの、脱炭素の動きを受けて、石炭・石油火力発電向け販売が苦戦いたしました。また、外部環境の影響を受けた船舶向けが減少した結果、全体として売上高は前年同四半期に比べ3.9%減収の6,852百万円、セグメント利益は前年同四半期に比べ29.5%減益の744百万円となりました。

#### 自動車用軸受以外部品

前連結会計年度より当社グループに加わった株式会社飯野ホールディング及びATAキャスティングテクノロジー・ジャパン株式会社並びに当該2社のグループ会社から構成される本報告セグメントの売上高は11,464百万円、セグメント損失は638百万円となりました。

#### その他

電気二重層キャパシタ用電極シート、金属系無潤滑軸受事業及びポンプ関連製品事業に不動産賃貸事業等を加えた売上高は前年同四半期に比べ11.2%増収の1,994百万円、セグメント利益は前年同四半期に比べ3.2%減益の500百万円となりました。

## (2) 財政状態の分析

### (総資産)

当第3四半期連結会計期間の総資産は前連結会計年度末に比べ2.9%増加し158,805百万円となりました。これは主に受取手形及び売掛金、有形固定資産が増加したことによります。

### (純資産)

当第3四半期連結会計期間の純資産は前連結会計年度末に比べ7.2%増加し55,646百万円となりました。これは主に利益剰余金、為替換算調整勘定が増加したことによります。

### (自己資本比率)

当第3四半期連結会計期間の自己資本比率は前連結会計年度末に比べ1.3ポイント増加し29.9%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、12,175百万円となり前年同四半期末に比べ2,179百万円（15.2%）の減少となりました。

当第3四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動において獲得した資金は、6,265百万円（前第3四半期連結累計期間は5,886百万円の獲得）となりました。これは主に減価償却費6,407百万円、税金等調整前四半期純利益4,739百万円によります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動において使用した資金は、8,826百万円（前第3四半期連結累計期間は16,467百万円の使用）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出8,679百万円によります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動において獲得した資金は、1,658百万円（前第3四半期連結累計期間は12,322百万円の獲得）となりました。これは主に短期借入金の純増減額2,716百万円によります。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針は以下のとおりであります。

基本方針の内容

当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針は以下のとおりであります。

当社は、中長期的な視野に立って、販売・生産・技術・新事業などの事業戦略を掲げ、安定的な発展と成長を目指しておりますが、企業を取り巻く環境は常に大きく変化しており、その短期的な経営判断は、将来に向けた持続的な成長を確実なものとするうえで極めて重要な舵取りを要求されます。

現在進行中の現中期経営計画（平成24年度から同29年度までの6カ年計画）も残り1年となりましたが、目標達成に向け当社グループの総力を結集して取り組んでまいります。また、平成30年度からの6カ年の次期中期経営計画の策定を進めておりますが、強靱な経営基盤の再構築と、更なる事業拡大を目標に掲げ、着実に実行していくことで、持続可能な経営基盤を確固たるものとし、企業価値の向上を目指してまいります。

そして、当社は、当社の顧客及び仕入先をはじめとする取引先、従業員及びその家族、地域住民その他のステークホルダーと協調しながら、短期的かつ急激な変化への柔軟な対応と、上記の中長期的な視野に立っての企業経営による持続的な成長を目指し、そのような持続的な成長によって得られる利益を株主の皆様へ還元することが、短期的、一時的な利益を株主の皆様へ配当するよりも、株主の共同の利益に資するものと確信しております。

したがって、当社は、当社の顧客、仕入先をはじめとする取引先、従業員及びその家族、地域住民などをはじめとして、上記の中長期的な視野に立っての企業経営による持続的な成長を支持して下さる方に、バランスよく株式を保有して頂くことが望ましいと考えております。

## 基本方針の実現に資する取り組み

### 1) 基本方針の実現に資する特別な取り組み

#### (ア) 中長期的な視野に立っての企業経営による持続的な成長を実現するための当社の財産の有効な活用

当社は、これまでも上記中長期的な視野に立った企業経営による持続的な成長を実現するために当社の財産を有効活用してまいりました。

今後も、中長期的な視野に立った企業経営による持続的な成長を実現するためには、今後の市場動向、変化に対応した生産・販売拠点づくり、国内外の子会社の生産性向上など当社レベルまでへの引き上げ及び製品・設計・製造・生産・開発の各技術の世界トップレベルの維持が必要となることから、株主の皆様への利益配当とのバランスを考慮しつつも、積極的な新製品及び生産技術などの研究開発、モノづくり力のアップ、産・官・学による先端技術の活用及び導入、知的財産権での企業防衛などに有効かつ効率的に当社の財産を投資してまいり所存です。

#### (イ) 従業員による株式保有の推進

当社は、従業員持株会加入者に奨励金を支給すること等により、従業員による株式の保有を推進しております。

引き続き、従業員持株会拡充に向けた積極的な取り組みを実施してまいります。

#### (ウ) 地域住民の当社に対する理解の促進

当社は、主要事業所での親睦行事や地域住民の工場見学会などへの参加等地域住民との交流を行い、地域住民による当社への理解が深まるよう心がけております。

### 2) 基本方針に反する株主による支配を防止するための取り組み

当社は、上記の基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されること(以下、「敵対的買収」といいます。)を防止するため、以下のように取り組んでまいります。

まずは、当社の資産を最大限有効活用しつつ、上記の中長期的な視野に立っての企業経営による持続的な成長を実現し、企業価値を増大させ、株主の皆様への適切な利益の還元を可能とするとともに、当社の企業価値の市場における評価の向上に結びつけるべく、積極的なIR活動に努めております。

その上で、継続的に実質株主を把握し、敵対的買収者が現れた場合には、当該敵対的買収者による買収目的の確認及び評価並びに当該敵対的買収者との交渉を社外の専門家の意見を聞きながら行い、当該敵対的買収者が当社の基本方針に照らして不適切と判断した場合には、適切な対抗手段を講じる考えであります。

また、敵対的買収者の出現に備えた事前の敵対的買収防衛策の導入につきましても、これを否定するものではなく、法令、関係機関の指針又は他社の動向も踏まえながら、株主共同の利益を確保しつつ、有効な方策を引き続き検討していく所存であります。

## 上記取り組みの妥当性に関する判断及びその理由

上記取り組みが基本方針に合致し、株主共同の利益を侵害せず、当社の役員の地位の維持を目的とするものではない適切なものであることは、その取り組みの態様から明らかであり、対抗手段や敵対的買収防衛策につきましても、基本方針に反する場合にのみ発動するものであることから、適切であることは明らかであると思料いたします。

### (6) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は1,408百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	44,956,853	44,956,853	東京証券取引所 市場第一部 名古屋証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	44,956,853	44,956,853	-	-

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数(株)	発行済株式 総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額(千円)	資本準備金 残高(千円)
平成29年10月1日～ 平成29年12月31日		44,956,853		7,273,178		7,649,095

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。



(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	(自己保有株式) 普通株式 5,141,200	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 39,776,600	397,766	-
単元未満株式	普通株式 39,053	-	-
発行済株式総数	44,956,853	-	-
総株主の議決権	-	397,766	-

【自己株式等】

平成29年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 大同メタル工業(株)	愛知県名古屋市中区栄二丁目 3番1号 名古屋広小路ビルディング13階	5,141,200	-	5,141,200	11.44
計	-	5,141,200	-	5,141,200	11.44

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
取締役 兼 専務執行役員 業務改革・ICT ユニット長 兼 業務改革推進室長	取締役 兼 専務執行役員 業務改革推進室長	佐々木 利行	平成29年10月1日

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

また、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出しておりますが、訂正後の四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	14,203,589	13,608,389
受取手形及び売掛金	25,031,493	<sup>2</sup> 26,648,744
電子記録債権	1,910,597	<sup>2</sup> 2,375,687
商品及び製品	9,296,242	10,328,622
仕掛品	7,942,201	8,630,633
原材料及び貯蔵品	5,327,629	6,045,342
その他	4,315,797	3,935,668
貸倒引当金	879,957	997,501
<b>流動資産合計</b>	<b>67,147,594</b>	<b>70,575,587</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物（純額）	17,705,128	17,710,775
機械装置及び運搬具（純額）	26,926,944	27,311,918
その他（純額）	18,657,972	19,556,102
<b>有形固定資産合計</b>	<b>63,290,045</b>	<b>64,578,795</b>
<b>無形固定資産</b>		
のれん	11,555,766	11,285,606
その他	5,075,891	4,679,236
<b>無形固定資産合計</b>	<b>16,631,658</b>	<b>15,964,843</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資その他の資産	7,263,388	7,744,001
貸倒引当金	48,987	57,531
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>7,214,401</b>	<b>7,686,469</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>87,136,105</b>	<b>88,230,108</b>
<b>資産合計</b>	<b>154,283,699</b>	<b>158,805,695</b>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,696,298	8,248,817
電子記録債務	8,143,777	8,925,038
短期借入金	38,001,952	41,232,477
1年内返済予定の長期借入金	5,122,048	7,279,413
未払法人税等	989,741	384,151
賞与引当金	1,673,670	897,151
役員賞与引当金	121,100	96,600
製品補償引当金	335,736	511,363
営業外電子記録債務	2,401,527	1,327,274
その他	8,030,003	6,821,886
流動負債合計	73,515,855	75,724,172
固定負債		
長期借入金	15,623,481	13,295,025
環境対策引当金	27,483	20,094
退職給付に係る負債	6,518,116	6,430,013
資産除去債務	17,720	17,720
負ののれん	2,159	1,759
その他	6,663,665	7,669,962
固定負債合計	28,852,627	27,434,575
負債合計	102,368,482	103,158,747
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	7,273,178	7,273,178
資本剰余金	8,821,705	8,821,705
利益剰余金	31,433,619	32,691,766
自己株式	1,421,594	1,422,102
株主資本合計	46,106,908	47,364,547
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,145,635	1,500,397
為替換算調整勘定	1,021,514	529,567
退職給付に係る調整累計額	2,049,572	1,966,094
その他の包括利益累計額合計	1,925,451	63,870
非支配株主持分	7,733,759	8,218,529
純資産合計	51,915,216	55,646,948
負債純資産合計	154,283,699	158,805,695

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	58,483,222	78,329,899
売上原価	42,441,023	57,773,402
売上総利益	16,042,198	20,556,497
販売費及び一般管理費	12,225,331	15,851,500
営業利益	3,816,867	4,704,996
営業外収益		
受取利息	30,138	42,953
受取配当金	49,581	64,812
負ののれん償却額	400	400
持分法による投資利益	21,049	137,470
スクラップ売却収入	374,711	511,529
その他	164,220	294,892
営業外収益合計	640,101	1,052,059
営業外費用		
支払利息	293,127	565,952
為替差損	300,266	189,807
その他	73,735	120,831
営業外費用合計	667,129	876,590
経常利益	3,789,839	4,880,465
特別利益		
補助金収入	200,000	-
特別利益合計	200,000	-
特別損失		
減損損失	-	140,925
特別損失合計	-	140,925
税金等調整前四半期純利益	3,989,839	4,739,539
法人税、住民税及び事業税	923,092	1,224,442
法人税等調整額	378,566	499,091
法人税等合計	1,301,658	1,723,533
四半期純利益	2,688,180	3,016,006
非支配株主に帰属する四半期純利益	345,257	563,384
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,342,922	2,452,621

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益	2,688,180	3,016,006
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	226,648	381,904
為替換算調整勘定	2,984,714	1,685,366
退職給付に係る調整額	126,129	97,382
持分法適用会社に対する持分相当額	66,614	32,632
その他の包括利益合計	2,565,322	2,197,286
四半期包括利益	122,858	5,213,292
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	376,732	4,441,943
非支配株主に係る四半期包括利益	253,873	771,348

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	3,989,839	4,739,539
減価償却費	4,706,128	6,407,742
減損損失	-	140,925
のれん償却額	104,106	806,425
負ののれん償却額	400	400
持分法による投資損益（は益）	21,049	137,470
貸倒引当金の増減額（は減少）	152,499	75,446
賞与引当金の増減額（は減少）	658,899	777,041
役員賞与引当金の増減額（は減少）	30,800	24,500
退職給付に係る資産負債の増減額	75,575	17,946
環境対策引当金の増減額（は減少）	1,032	7,389
受取利息及び受取配当金	79,719	107,765
補助金収入	200,000	50,352
支払利息	293,127	565,952
売上債権の増減額（は増加）	1,873,163	1,551,992
たな卸資産の増減額（は増加）	1,396,239	2,117,198
仕入債務の増減額（は減少）	1,696,871	13,306
未払消費税等の増減額（は減少）	15,454	170,460
その他の負債の増減額（は減少）	763,603	531,873
その他	275,543	208,680
小計	7,229,449	8,460,213
利息及び配当金の受取額	78,789	109,201
持分法適用会社からの配当金の受取額	5,421	-
補助金の受取額	400,000	-
利息の支払額	288,927	563,699
法人税等の支払額	1,538,099	1,740,713
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,886,633	6,265,001

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	1,282,309	2,141,434
定期預金の払戻による収入	777,871	2,081,893
投資有価証券の取得による支出	3,078	15,589
投資有価証券の売却による収入	3	-
有形固定資産の取得による支出	7,115,224	8,679,357
有形固定資産の売却による収入	19,122	165,784
無形固定資産の取得による支出	315,155	168,440
貸付けによる支出	24,792	47,217
貸付金の回収による収入	36,688	26,244
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	2 8,565,656	-
その他	5,362	47,964
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>16,467,169</b>	<b>8,826,080</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（は減少）	15,229,701	2,716,811
長期借入れによる収入	1,100,000	4,200,000
長期借入金の返済による支出	2,521,433	4,153,949
セール・アンド・リースバックによる収入	-	1,094,490
ファイナンス・リース債務の返済による支出	151,214	684,360
自己株式の取得による支出	444	508
配当金の支払額	1,090,402	1,166,800
非支配株主への配当金の支払額	244,104	346,858
非支配株主からの払込みによる収入	16	-
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>12,322,119</b>	<b>1,658,825</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	762,424	250,652
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	979,159	651,601
現金及び現金同等物の期首残高	13,376,114	12,827,298
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 14,355,273	1 12,175,696



【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対して、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
従業員の住宅ローン融資等に対する保証債務の額	168,298千円	161,088千円

2. 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、当第3四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
受取手形及び電子記録債権	- 千円	204,795 千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、下記のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
現金及び預金勘定	15,599,074 千円	13,608,389 千円
預入期間が3か月超の定期預金	1,243,800	1,432,693
現金及び現金同等物	14,355,273	12,175,696

2. 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

株式の取得により新たに株式会社飯野ホールディング及びその子会社を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに同社株式の取得価額と連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	5,821,039 千円
固定資産	7,916,635
のれん	3,224,382
流動負債	1,882,994
固定負債	4,987,310
非支配株主持分	91,752
株式の取得価額	10,000,000
現金及び現金同等物	1,434,343
差引：連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	8,565,656

前第3四半期連結会計期間において行われた企業結合に係る暫定的な会計処理が前連結会計年度末に確定しているため、暫定的な会計処理の確定による取得価額の当初配分額の重要な見直しが反映された後の金額によっております。

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	517,614	13.00	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金
平成28年11月14日 取締役会	普通株式	597,242	15.00	平成28年9月30日	平成28年12月7日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	597,238	15.00	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金
平成29年11月14日 取締役会	普通株式	597,234	15.00	平成29年9月30日	平成29年12月7日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	自動車用 エンジン 軸受	自動車用 エンジン 以外軸受	非自動車用 軸受	自動車用 軸受以外 部品	計		
売上高							
外部顧客への売上高	40,412,805	9,459,860	7,121,928	-	56,994,595	1,488,627	58,483,222
セグメント間の内部 売上高又は振替高	105,693	1,074,472	10,548	-	1,190,714	305,648	1,496,362
計	40,518,499	10,534,332	7,132,477	-	58,185,309	1,794,275	59,979,585
セグメント利益	4,845,283	2,020,245	1,055,755	-	7,921,285	517,258	8,438,544

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、電気二重層キャパシタ用電極シート、金属系無潤滑軸受事業、ポンプ関連製品事業、不動産賃貸事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利 益	金 額
報告セグメント計	7,921,285
「その他」の区分の利益	517,258
セグメント間取引消去	52,658
全社費用(注)	4,674,335
四半期連結損益計算書の営業利益	3,816,867

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第3四半期連結会計期間において、株式会社飯野ホールディング及びその子会社を連結の範囲に含めたことに伴い、前連結会計年度の末日に比べ、「自動車用軸受以外部品」事業のセグメント資産が16,962百万円増加しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結会計期間において、株式会社飯野ホールディング及びその子会社を連結の範囲に含めたことに伴い、前連結会計年度の末日に比べ、「自動車用軸受以外部品」事業ののれんが3,224百万円増加しております。

当第3四半期連結累計期間（自平成29年4月1日至平成29年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	自動車用 エンジン 軸受	自動車用 エンジン 以外軸受	非自動車用 軸受	自動車用 軸受以外 部品	計		
売上高							
外部顧客への売上高	47,829,583	10,586,614	6,841,924	11,453,232	76,711,356	1,618,543	78,329,899
セグメント間の内部 売上高又は振替高	177,303	1,323,034	10,151	10,845	1,521,334	375,816	1,897,150
計	48,006,886	11,909,649	6,852,076	11,464,077	78,232,690	1,994,359	80,227,050
セグメント利益 又は損失（ ）	6,814,204	2,058,717	744,734	638,008	8,979,647	500,498	9,480,145

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、電気二重層キャパシタ用電極シート、金属系無潤滑軸受事業、ポンプ関連製品事業、不動産賃貸事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

（単位：千円）

利 益	金 額
報告セグメント計	8,979,647
「その他」の区分の利益	500,498
セグメント間取引消去	54,954
全社費用(注)	4,830,102
四半期連結損益計算書の営業利益	4,704,996

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度において、株式会社飯野ホールディングの株式を取得し、同社及びその子会社を連結の範囲に含めたことに伴い、前第3四半期連結累計期間より、新たな報告セグメントとして「自動車用軸受以外部品」事業を新設しております。

なお、平成28年12月31日をみなし取得日としているため、前第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書に同社及びその子会社の業績は含まれておりません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	58.84円	61.59円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	2,342,922	2,452,621
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	2,342,922	2,452,621
普通株式の期中平均株式数(千株)	39,816	39,815

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

平成29年11月14日開催の取締役会において、当期中間配当に関し次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額 597,234千円

(ロ) 1株当たりの金額 15円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 平成29年12月7日

(注) 平成29年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行いました。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

令和元年9月17日

大同メタル工業株式会社  
取締役会 御中

### 有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 三 富 康 史 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 奥 田 真 樹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている大同メタル工業株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成29年10月1日から平成29年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年12月31日まで)に係る訂正後の四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、大同メタル工業株式会社及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### その他の事項

四半期報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は、四半期連結財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は、訂正前の四半期連結財務諸表に対して平成30年2月12日に四半期レビュー報告書を提出した。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。